

2024 年度事業報告

自 2024 年 4 月 1 日
至 2025 年 3 月 31 日

当協会は、第 12 回定時総会において、施工管理事業、品質管理事業、広報事業を骨格とする 2024 年度の事業計画と約 6,000 万円(断熱特別会計を含む)の予算を決定し、これに基づき以下の事業を実施したので報告する。

新たな技術図書の検討、既存建築物における屋根ふき材の耐風診断・耐風補強技術評価に関する研究への協力などを行ったほか、折板屋根の新たな屋根 30 分耐火構造認定取得に向けた作業を進めた。引き続き金属屋根・外壁に関連する各種技術情報を積極的に公開した。

1. 組織運営

(1) 会議

事業計画の円滑な執行を図るため、次の会議並びに委員会を運営した。

表 1 会議・委員会

会 議 ・ 委 員 会	所 管 事 項
正 副 会 長 会 議	事業及び予算執行に関する事項
審 査 委 員 会	技術審査の問題作成、可否の判定に関する事項
技 術 委 員 会	技術の向上及び技術サービスに関する事項
広 報 委 員 会	広報及び機関誌・ホームページに関する事項

表 2 会議・委員会開催経過

総 会	第 12 回:5 月 21 日
理 事 会	第 31 回:5 月 21 日、第 32 回:5 月 21 日、第 33 回:1 月 15 日
賀 詞 交 歓 会	1 月 15 日
正 副 会 長 会 議	5 月 15 日、7 月 30 日、10 月 29 日、2 月 27 日
審 査 委 員 会	1 月 29 日
技 術 委 員 会	4 月 23 日、5 月 28 日、6 月 25 日、7 月 26 日、9 月 3 日、10 月 2 日、11 月 6 日 12 月 3 日、12 月 23 日、1 月 29 日、2 月 26 日、3 月 24 日
広 報 委 員 会	休止中

(2) 会員の異動状況

2025 年 3 月末における会員の異動状況は次の通りである。

表 3 会員移動状況 (2024 年 12 月末からの異動状況)

会員区分	期 首	増加数	減少数	12 月末
正 会 員	248	4	2	250
特別正会員	104			104
特 別 会 員	7		1	6
賛 助 会 員	34		1	33
合 計	395	4	4	395

(3) 役員改選

第 12 回定時総会で役員改選を行った。理事の新任・退任は表 4 の通り。総会後の第 32 回理事会で表 5 の通り副会長の選任を行った。

表 4 理事の退任・新任

	新 任		退 任	
	氏 名	所 属	氏 名	所 属
理 事	荻 原 竜 一	(株)荻原銅器	久保田 幹 夫	クボタ金属(株)
	下 村 和 也	(株)協和	青 木 謙 二	(株)協和
	妹 尾 達 明	日鉄鋼板(株)	柴 和 延	(株)柴板金
	戸 塚 源 次	月星商事(株)	関 本 総 裕	日鉄鋼板(株)
	伴 信 一 郎	(株)佐渡島	高 山 英 幸	日鉄物産(株)
	矢 代 富士夫	日本金属屋根協会	出 口 保 行	(株)久忠
			濱 田 甚 八	(株)佐渡島
			原 田 俊 史	月星商事(株)
			濱 野 浩 幸	日本金属屋根協会

表 5 副会長の選任

会 長	佐 藤 宏 明	三晃金属工業(株)	
副 会 長	半 場 大 士	JFE 日建板(株)	
〃	山 手 紀 隆	(株)細川工業	
〃	江 森 邦 夫	JFE 鋼板(株)	新任
〃	西 國 和 美	(株)淀川製鋼所	新任

※退任 土嶋昌明(JFE 鋼板(株)) 平田敦((株)淀川製鋼所)

2. 安全対策事業

機関誌に以下の労務並びに安全関係記事を掲載した。

5 月号: 石綿障害予防規則を掲載

6・7 月号: 建築物等の解体等における石綿の飛散防止対

3. 調査研究事業

(1) 社会保険加入促進に関する周知活動の実施

社会保険の加入促進に向け、会員企業等からの問い合わせに対応した。

(2) 若年労働者育成に関する調査等

① 中央職業能力開発協会への中央技能検定委員の派遣

建築板金(内外装板金作業)の中央技能検定委員として藤原政信技術委員(三晃金属工業)、宮腰事務局次長を派遣した。

(3) 建設キャリアアップシステム(CCUS) 能力評価における金属屋根工事技士

金属屋根工事技士は建設キャリアアップシステムにおける能力評価基準(建築板金)において、「レベル3」の保有資格の一つとして位置付けられている。

能力評価基準【建築板金】		国土交通省
呼 称	建築板金技能者	
能力評価実施団体	(一社) 日本建築板金協会	
CCUS職種コード	39板金工 - 01板金工	
レベル4	就業日数	10年(2150日)
	保有資格	●登録建築板金基幹技能者【00021】 ●優秀施工者国土交通大臣顕彰(建設マスター)【91013】 ●1級建築施工管理技士【30007】 ●卓越した技能者(現代の名工)【94058】 ◇レベル2、3の基準に示す保有資格【必須】
	職長経験	3年(645日)
レベル3	就業日数	7年(1505日)
	保有資格	●1級建築板金技能士【10301,10311】 ●2級建築施工管理技士【30008】 ●青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰【93013】 ●金属屋根工事技士【33078】 ◇職長・安全衛生責任者教育【必須】【60001,60011】 ◇レベル2の基準に示す保有資格【必須】
	職長・班長経験	1年(215日)
レベル2	就業日数	3年(645日)
	保有資格	◇アーク溶接特別教育【必須】【50003】 ◇玉掛け技能講習【必須】【40040】 ◇高所作業車運転技能講習【必須】【40039】
レベル1		建設キャリアアップシステムに技能者登録され、かつ、レベル2から4までの判定を受けていない技能者

※ ◇印の保有資格は、必須。 ●印の保有資格は、いずれかの保有で可。

(4) 特定技能外国人の受入れについて

① 会員在籍証明書の発行

特定技能外国人を受け入れようとする企業は、JAC(建設技能人材機構)の賛助会員もしくは JAC に加入した団体の会員である必要がある。このため、特定技能外国人の受け入れを計画している当協会の会員からの要請により、会員在籍証明書を発行した。3月末までの発行数は累計で67件。

(5) 金属屋根等に関する統計調査の実施

2022年度における金属屋根、粘土瓦、厚形スレート、化粧スレート、波形スレートの出荷量、並びに金属屋根・外壁素材の出荷量に関する調査を行った。調査結果については、ホームページに12月11日に公表した。

表 6 各種屋根材の出荷動向・面積比較(単位:千㎡)

年度	金属	セメント瓦	波形スレート	粘土瓦	化粧スレート	合計	金属比率
2000	72,603	9,713	10,200	76,218	31,234	199,968	36.3%
2001	71,261	8,317	8,230	72,046	28,161	188,015	37.9%
2002	66,920	7,562	7,088	69,844	24,110	175,524	38.1%
2003	67,125	7,530	6,718	68,280	25,748	175,401	38.3%
2004	70,142	4,999	7,332	58,892	22,183	163,548	42.9%
2005	82,881	7,149	5,646	57,353	22,711	175,740	47.2%
2006	83,573	6,395	4,698	55,521	20,465	170,652	49.0%
2007	69,836	4,136	3,890	44,372	18,788	141,022	49.5%
2008	54,661	1,941	3,061	38,957	17,078	115,698	47.2%
2009	44,687	2,148	2,176	38,186	15,525	102,722	43.5%
2010	48,663	2,137	2,281	32,588	16,202	101,871	47.8%
2011	51,774	956	2,252	34,123	16,713	105,818	48.9%
2012	55,135	1,125	2,136	33,572	16,975	108,943	50.6%
2013	57,918	1,039	1,716	31,197	17,582	109,452	52.9%
2014	64,009	734	1,586	28,413	16,799	111,541	57.4%
2015	55,468	548	1,684	24,813	15,844	98,357	56.4%
2016	66,309	607	1,506	22,528	16,197	107,147	61.9%
2017	66,655	599	1,384	19,410	15,667	103,715	64.3%
2018	61,073	790	1,698	19,384	15,658	98,603	61.9%
2019	56,624	835	1,416	18,488	15,876	93,239	60.7%
2020	50,228	1,321	1,032	16,924	13,222	82,727	60.7%
2021	50,065	1,158	851	15,625	12,617	80,316	62.3%
2022	44,781	1,144	839	14,326	12,142	73,232	61.1%

*金属屋根材、波形スレート、粘土瓦の面積は換算値。換算値は当協会の推計。

4. 審査事業

(1) 金属屋根工事技士技術審査

2024 年 12 月 7 日(土)に札幌、東京、大阪、福岡の 4 会場で実施した。可否の判定は 1 月 29 日開催審査委員で行い、3 月上旬に受験者に通知。

表 7 金属屋根工事技士技術審査

地 区	会 場	申込者数	受験者数	合格者数・率(%)	
札 幌	札幌市教育文化会館	3	3	2	66.7
東 京	鉄鋼会館	21	20	14	70.0
大 阪	科学技術センター	28	26	19	73.1
福 岡	朝日ビル	11	10	7	70.0
合 計		63	59	42	71.2

5. 施工管理事業

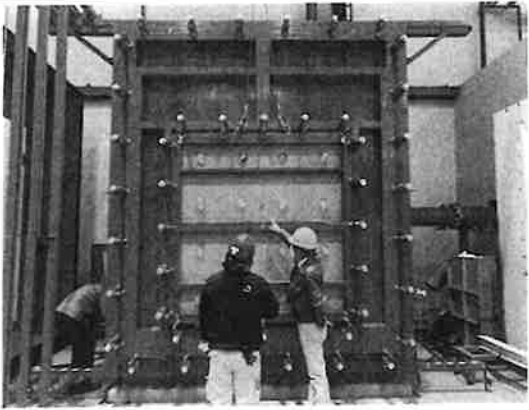
(1) 金属屋根工事技士「更新講習会」の開催

2024 年度の「更新講習会」の開催をオンラインで開催する。資格者以外を対象とした金属屋根講座も開催する。受講申込みは2月3日～2月28日。講習は3月1日～3月31日の間、受講可能とする。

4月末まで受講を延長した。

資格更新受講者 252名 講座受講者 11名 合計263名

表 8 2024 年度 講習内容

メインテキスト：『風と金属屋根』第3版 ① 木質梁(集成材)におけるタイトフレームの確認試験 ② 折板の曲げ方向の話 ③ 折板屋根カバー工法での接合部確認試験 屋根を調べる 2025 を配布	
---	--

6. 品質管理事業

(1) 新しい技術資料に関する検討

技術委員会では 2025 年度での発行を目標に、新たな技術資料として『屋根改修工事の手引き』の改訂作業を進めている。

(2) 既存建築物における屋根ふき材の耐風診断・耐風補強技術評価に関する研究

国交省・国土技術政策総合研究所では、「既存建築物における屋根ふき材の耐風診断・補強技術評価に関する研究」を行っている。

① 鉄骨下地の横ぶき屋根の耐風圧性試験とねじの端切れ試験について技術委員会が協力した。打合せ、試験等の実施は以下の通り。

- # 1月26日(金):ねじ端切れ試験 @建材試験センター 結果については、機関誌12月号に掲載
- #12月23日(月):端切れ引張試験概要について @技術委員会と併催
- # 1月9日(木):試験体作成(建材試験センター草加)
- # 1月17日(金):試験(建材試験センター草加)

② 既存の金属屋根の耐風2次診断時の調査・診断手法に関する情報の整理作業を行っている。

(3) 計算ソフト『屋根を調べる 2025』の作成

『屋根を調べる 2025』を作成する。2025年版での改正点は以下の通り。

#『屋根を調べる 2024』での寄棟の屋根勾配入力欄及び縦ぶきの働き幅について修正した。
本ソフトの内容は以下の通り。

- ①風圧力算定ソフト ②積雪荷重算定ソフト ③屋根性能計算ソフト ④工事管理報告書作成ソフト

⑤風荷重関連基準解説書(PDF) ⑥屋根ふき材の構造計算解説書(PDF)
屋根性能計算ソフトでは、以下の計算を行うことができる。

表 9 屋根性能計算ソフト内容

耐風強度計算	耐積雪強度計算	性能確認計算
折板強度(連続梁)	折板強度(連続梁)	熱貫流率計算
折板強度(単純梁)	折板強度(単純梁)	断熱性能計算(日射吸収)
折板強度(軒先)	折板強度(軒先)	断熱性能計算(放射冷却)
接合部材・接合部耐風強度	接合部材積雪強度	結露計算
タイトフレーム溶接強度	雪止め金具取付間隔	室内温度上昇計算
パラペット下地強度	母屋・垂木強度	屋根材の熱伸縮量計算
雨とい取付金具強度	野地板強度	透過損失計算
母屋・垂木強度		騒音伝達計算
野地板強度		といの排水量計算
ファスナー取付強度		軒先流層高さ計算
横葺き吊子の引抜強度		
縦葺きの耐風強度(SSR07 ベース)		
横葺きの耐風強度(SSR07 ベース)		

(4) 国交省『建築工事標準仕様書』の改定への対応

仕様書・第 13 章「屋根及びとい工事」における金属屋根に係る箇所の改定作業に技術委員会が対応している。改定版は令和 7 年度版として発行される予定。

(5) 金属屋根に関する技術情報の提供

会員内外を含めて、金属屋根・外壁の設計・施工にかかわる問合せが増加していることなどに対応するため、機関誌並びにホームページに以下の事項を掲載した。

① 機関誌公表分

- * 庇が負担する風荷重の考え方
- * 屋根及び外壁の改修に関する建築基準法上の取り扱いについて
- * 石綿障害予防規則
- * 建物等の解体等における石綿の飛散防止対策
- * 折板の曲げ方向の話
- * 木造戸建の大規模なリフォームの建築確認手続き等について
- * 長尺金属慨史

② ホームページ公表分

- * 「FP030RF-9325」及び「FP030RF-9326」に於ける梁の耐火被覆の記述について
- * 「木下地(野地板に直接留め付け)」における「かん合形立平ぶき」の圧力箱試験
- * 屋根及び外壁の改修に関する建築基準法上の取り扱いについて
- * 石綿障害予防規則
- * 建物等の解体等における石綿の飛散防止対策
- * 鋼板製屋根構法標準における折板屋根の設計体系と建築基準法上の位置づけ

＊計算ソフト「屋根を調べる」にまつわるあれこれ

- (6) 『風と金属屋根・第3版』『LLM2017』、『MSRW2014』、『SSW2011』並びに『SSR2007』の普及
会員等からの内容に関する問い合わせに事務局、技術委員会が対応した。

7. 断熱事業

(1) 運 営

事業の円滑な執行を図るため、断熱亜鉛鉄板委員会内部に幹事会、技術分科会を設け活動を行っている。分科会はリモート+リアル開催で実施した。幹事会は書面配信方式あるいはリモート+リアル開催にて検討。

また、ID 取得講習会・大臣認定説明会は WEB 配信にて検討。

表 10 幹事会・分科会等の開催状況

	総会	幹事会	技術分科会	ID 講習、入会審査
4 月			3 日、25 日	
5 月	21 日		23 日	
6 月			20 日	
7 月			22 日	
8 月			21 日	
9 月			24 日	
10 月			25 日	
11 月			27 日	
12 月			21 日	
1 月			31 日 BL 打合せ	
2 月				
3 月			4 日	1～31 日

今年度中の委員会・会員の異動状況は以下の通り。

表 11 委員会・会員異動状況

会 員 区 分	期首	増加	減少	12 月末
正 会 員	85	0	2	83
賛 助 会 員	13	0	1	12
合 計	98	0	3	95

(2) 耐火構造認定の取得

① 新しい耐火認定の取得について

K0920 の再試験および再取得(ガラス繊維系裏打材条件下での耐火スパン拡大)について、過去データの再検討、試験シミュレーションなどを経て、積荷条件など試験詳細をベターリビングと協議を重ね基本的な申請構造の案を整えた。今後具体的な申請書面とスケジュールを調整する予定。

(3) 認定書発行管理体制の整備

① 大臣認定書発行管理体制の開発と運用

大臣認定書の発行と管理を、平成 21 年 4 月 1 日より電子媒体で行っている。新認定が増えるごとにシステムに追加して運用している。

② 認定書の発行业務

委員会の発行する認定書は、従来認定(5 件)と二重折板認定(9 件)を各々合本として発行し、追加認定(16 件)は認定ごと個々に発行している。総計で 30 件の認定を管理している。

2024 年 4 月～2025 年 3 月末までの認定書発行数は、99 件(昨年同期件数+37 件)であった。

(4) 広報活動

会員企業を対象に認定内容並びに大臣認定書(写し)の発行管理体制の周知に努めた。協会の機関誌(施工と管理)、建築専門誌(日経アーキテクチャ)等を通じた広報活動も行った。

① 認定内容の説明会並びに ID 取得講習会

4 年前までは会員企業を対象に、二重折板認定・従来認定・追加認定の内容について説明会を全国 6 会場で開催していたが、2020 年度はコロナ禍の影響でリアル実施を断念した。2021 年度～2023 年度は WEB 配信で行った。

今年度は昨年度に引き続き WEB 配信(動画 100 分程度)で実施し、動画視聴後に配布(参考)資料にアクセス並びに・プリントできるよう準備を進めている。

② ホームページの更新

会員名簿の修正を実施した。

③ 日経アーキテクチュア(日経 BP 社)への広告掲載

同誌 2024 年 10 月号・別冊特集『美しい屋根 2024』に委員会が取得している大臣認定一覧と認定書(写し)の発行管理を紹介した。

④ 「防火材料のしおり」(編集:国土交通省住宅局建築指導課/防火材料等関係団体協議会)

断熱亜鉛鉄板のページに修正を加えた。

(5) 品質の維持・向上

一般ユーザーおよび会員からの防火・耐火認定の形状・寸法・材質などの品質に関する各種問い合わせに対応した。

(6) その他

① 国土交通省からの性能評価試験における試験体についての不正有無の確認依頼

上記確認依頼に対し、書面調査およびヒアリングにて不正の無いことを確認した。

① 他団体との交流

委員会は、断熱亜鉛鉄板に関する各種情報を得ることを目的に、主に次の団体と交流している。

- ・防火材料等関係団体協議会
- ・防火工法推進協議会

(1) 機関誌「金属屋根 施工と管理」の発行

2024 年度の特集記事は次の通りである。

号	タイトル	執筆者等
'24 年 4 月号	屋根及び外壁の改修に関する建築基準法上の取り扱い	国土交通省
5 月号	石綿障害予防規則	技術委員会/事務局
6 月号	建築物等の解体等における石綿の飛散防止対策その1	技術委員会/事務局
7-8 月号	同上 その2	技術委員会/事務局
9 月号	折板の曲げ方向の話	技術委員会/事務局
10 月号	令和 5 年度【フラット35】住宅仕様実態調査	住宅金融支援機構
11 月号	木造戸建の大規模なリフォームの建築確認手続き等について	国土交通省
12 月号	鋼板製屋根の耐風性能評価のための耐力のばらつきと破壊モード	国土技術政策総合研究所
'25 年 1 月号	初めて学ぶ もう一度学ぶ 金属の屋根と外壁 LLM2017の案内	技術委員会/事務局
2 月号	下請債権保全支援事業について	国土交通省
3 月号	長尺金属概史	技術委員会/事務局

協会ホームページは、2002年2月1日より正式に公開している。2024年度は、1ヶ月に1回程度のペースで更新を行った。ホームページの主な内容と更新状況は以下の通り。

主な内容と更新状況	新たにアップしたページ
① トップページ…掲載写真を更新	
② 金属屋根素材の解説…従来通り	
③ 主な金属屋根の製品紹介…従来通り	
④ 環境配慮型屋根…従来通り	
⑤ 屋根ふき材の構造計算…従来通り	
⑥ テクニカルリポート…技術リポートを追加	6-1. 屋根及び外壁改修に関する建築 基準法上の取り扱い
⑦ スレート屋根改修のご提案…従来通り	6-2. 石綿障害予防規則
⑧ 講習会・試験のお知らせ…随時見直し	6-3. 鋼板製屋根構法標準における折板 屋根の設計体系と建築基準法の位置づけ
⑨ 金属屋根工事技士制度の紹介…従来通り	
⑩ 工事管理報告書…従来通り	
⑪ 出版物案内…紹介図書の追加、修正。	
⑫ 統計…内容更新	

主な内容と更新状況	新たにアップしたページ
⑬ 施工写真集…従来通り ⑭ 用語集…従来通り ⑮ あの屋根・この屋根…従来通り ⑯ 銅屋根クロニクル…記事を追加 ⑰ 会員名簿…随時見直し ⑱ 協会の情報公開…2024 年度の内容に更新	

(3) 建築系工業高校への広報活動

2007 年 9 月号より金属屋根に対する理解促進等を図るため、全国の建築系学科を有する工業高校への機関誌の配布を行っている。

(4) 書籍等の頒布

以下の書籍等について会員及び一般向けに頒布を行った。

- ①初めて学ぶ・もう一度学ぶ 金属の屋根と外壁 LLM2017 ②鋼板製屋根・外壁の設計・施工・保全の手引き MSRW2014 ③計算ソフト「屋根を調べる」 ④金属屋根の施工と管理－改訂 4 版－
⑤鋼板製外壁構法標準 SSW2011 ⑥鋼板製屋根構法標準 SSR2007 ⑦風と金属屋根－第 3 版－

9. その他

(1) 建設マスター・ジュニアマスターの推薦

建設産業の第一線で「ものづくり」に直接従事している方の中から、特に優秀な技能、技術を持ち、後進の指導・育成等に多大な貢献をしている方を国土交通大臣が顕彰する優秀施工者（建設マスター）と技術・技能が優秀であり、将来一層の活躍が期待される方を不動産・建設経済局長が顕彰する青年優秀施工者（建設ジュニアマスター）の推薦を行った。

2024 年度は以下の方が受章した。当会としての受章者は建設マスターが 78 名、ジュニアマスターが 18 名となった。

【マスター】

下迫哲也	下迫建築板金工業(株)	東京都
新妻善伸	新妻板金工業(株)	宮城県
白土真二	関東パステム工業(株)	千葉県

【ジュニア】

藤井 翔	(株)福元板金	広島県
今井綾太	今原板金	三重県

以 上